



5月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

今年は3月の陽気のせいで入園式当日は葉桜でしたし、昨年の今頃満開だった八重桜ももう散ってしまいました。今、藤棚の藤が満開で、今年の春は感じる間も無いくらい短かったように思います。

新年度が始まって3週間が過ぎました。幼稚園には、嬉しさや好奇心で一杯の子も、戸惑いや落ち着かなさを感じている子もいます。新入園の子にとって、幼稚園の施設や備品は勿論、教諭も、そして自分以外の子どもたちも、全てが、新しい「環境」です。そんな新しい環境の中で、様々に動いていく自分の感情と折り合いをつけるのに精一杯、という状況でしょう。進級した子も、新しい気付きがあって、気持ちが大きく動いていることでしょう。一人ひとりを受け留めて、安心と自信が育つように、この時期を過ごしたいと思います。

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の改訂に伴い、幼児教育について様々に論じられていますが、北野幸子氏（神戸大学発達科学部准教授）は、これからの幼児教育は「何に興味を持ったのか、どんな疑問を持ったのかを洞察し、子どもの姿を「みとり」それに基づき援助することにより、学びの姿勢や、人と関わろうとする意欲を育む教育」であり、そのような「乳幼児期の発達に適した、子どもの遊びと生活を中心とした、主体性や自発性を尊重した、環境を通じた教育が保証されることが望まれる」*と述べています。

これは「幼稚園生活のしおり」に「木の根っこ」の絵を使って書かせていただいています。神戸 YMCA の幼稚園がずっと実践してきた幼児教育そのものです。実践する教諭には、子どもたちの興味を引き出す様々な工夫、子どもへの洞察力、現場での判断力や応用力など、たくさんのが求められます。研鑽と努力を重ねたいと思います。

そして、保護者の皆さんとしっかりコミュニケーションをとらせていただき、ご理解とご協力を得て、子どもたちを育てていきたいと思っています。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

*「保幼小接続期教育推進のための研修プログラム開発」研修テキスト)

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

<年主題聖句> 「愛する者たち、
神がこのように私たちを愛されたのですから、
私たちも互いに愛し合うべきです。」
(ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節)

5月主題 『感じる』

<聖句> 「わたしは良い羊飼いである」
(ヨハネによる福音書 10章11節)